

い人材を育てるという考えのもと、確固たるチームビジョンを掲げ、選手の意識改革、意識付けを徹底することで得た心理的安全性の高いチームが高いパフォーマンスを発揮できると熱く語られました。

特別講演1では、医療介護福祉政策研究フォーラム理事長／国際医療福祉大学大学院教授の中村秀一先生に「2040年に向けての社会保障」と題してご講演いただきました。2040年に向けての課題である人口減少社会において、医療・福祉分野でのサービスを支える人材の確保がボトルネックとなることが懸念され、また今日の社会保障は、結果として高齢期集中型の社会保障となっており、現役層、とりわけ子供・子育て世代に十分機能していない状況にあるため、全世代型への社会保障への転換が必要となると話され、地域包括ケアシステムの構築と地域共生社会の実現が、引き続き求められるとまとめられました。

特別講演2では、社会保険診療報酬支払基金本部理事の山本光昭先生に、「医療アライアンス法人構想～病院の新たなグループ化の提言～」と題して、航空会社のアライアンスをモデルとした「医療アライアンス法人」構想について、地域医療連携推進法人との比較や二次医療圏を超えるアライアンスの意義、その実現と成功の鍵についてご講演いただきました。医療アライアンス法人は民間法人が中心となることが想定され、設立・運営のポイントは「参加法人の経営トップが参画して基本理念やビジョンの策定を行い、自身の法人職員にもそれを徹底していくことが成功の鍵を握る」と仰っておられました。

特別講演3では、厚生労働省医政局長の迫井正深先生に「コロナ後を見据えた日本の医療のこれから」と題して、入院医療(病床配置)の在り方や外来医療機能の明確化、これと大きく連動する医師の働き方改革についてご講演いただきました。コロナに対応するための医療提供体制の構築では、感染拡大時の受け入れ体制イメージ案を示されながら、実際の病院の対応ケースも紹介されました。働き方改革については「医師などの医療提供者だけではなく、社会全体として取り組む課題として掲げられたものであり、今後の日本の人口構成を考えた上で、より効率的・効果的な働き方が求められる」と話されました。

教育講演1では、社会福祉法人日本医療伝道会衣笠病院グループ相談役／よこすか地域包括ケア推進センター長である武藤正樹先生に、「新型コロナで医療が変わる～三位一体改革の行方～」と題してご講演いただきました。新型コロナの影響によって医療機関は戦後最大の危機を迎えたが、これから医療計画に新興・再興感染症が加わり、公立・公的病院を代表とした地域医療構想の在り方の変化、外来機能分化にも今後着目

すべきであると強調されました。また、医師偏在対策の推進をはじめ、地域偏在、診療科の偏在解消が全国的な問題であり、地域医療連携推進法人が三位一体改革の解決の切り札であると話されました。

教育講演2では、近畿大学経営学部キャリア・マネジメント学科教授の西尾久美子先生に「自律的人材の育成～京都花街、舞妓の事例～」と題して、仕事をしながら人が育つ方法や対話でなす評価の仕組みについてご講演いただきました。

教育講演3では、東邦大学医学部社会医学講座医療政策・経営科学分野教授の長谷川友紀先生に「医療の質を巡って－概念・測定法・利活用について－」ご講演いただきました。「EBMの限界が認識されるにつれて、DPCデータを集め常に解析し、良くしていくような事が可能な長期的視点に立ったLearning Healthcare System(学び進化する医療システム)の仕組みを構築し、組織にビルトインさせていくことが大事である。」と述べられました。また、良質な医療を組織として長期的・継続的に提供し改善できる仕組みをつくるには、医療の質管理の実務責任者として、膨大なデータに対し問題意識を持って集計、分析を行うクオリティマネージャーの役割が非常に重要であり、ビッグデータの重要性和引用、情報公開を含めた活用の流れ、そして質の管理が病院経営上、非常に重要な要素であると締めくくられました。

教育講演4では、株式会社メディカルノート代表取締役の井上祥先生から「医療デジタルマーケティングの今－オフラインとオンラインが融合する世界の幕開け」と題し、国内外の医療情報発信について多数の事例をお示しいただき、情報は徹底的にユーザーのことを考えニーズに応えることと、それが届くためにはストーリーを用いるなどナラティブな接点を持つことが大切であると話されました。

教育セミナー1では、本学会の大きな柱となるクリティカルパスについて「如何にして院内院外のクリティカルパス活動を高めるか」をテーマに掲げ、一般財団法人新田塚医療福祉センター福井総合病院院長の勝尾信一先生に「院内クリティカルパス活動のPDCAサイクル」、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学講座医療情報学准教授／長崎大学病院医療情報部の松本武浩先生には「ICTを活用した地域連携強化～地域医療情報ネットワークと地域連携クリティカルパス～」と題して、クリティカルパス活動を高めるための貴重なご講演をいただきました。

教育セミナー2では、東京医療保健大学副学長の坂本すが先生と千葉大学医学部附属病院医療安全管理部教授の相馬孝博先生に企画いただき「医療安全 組織としての検討のあり方」と題して、相馬先生には